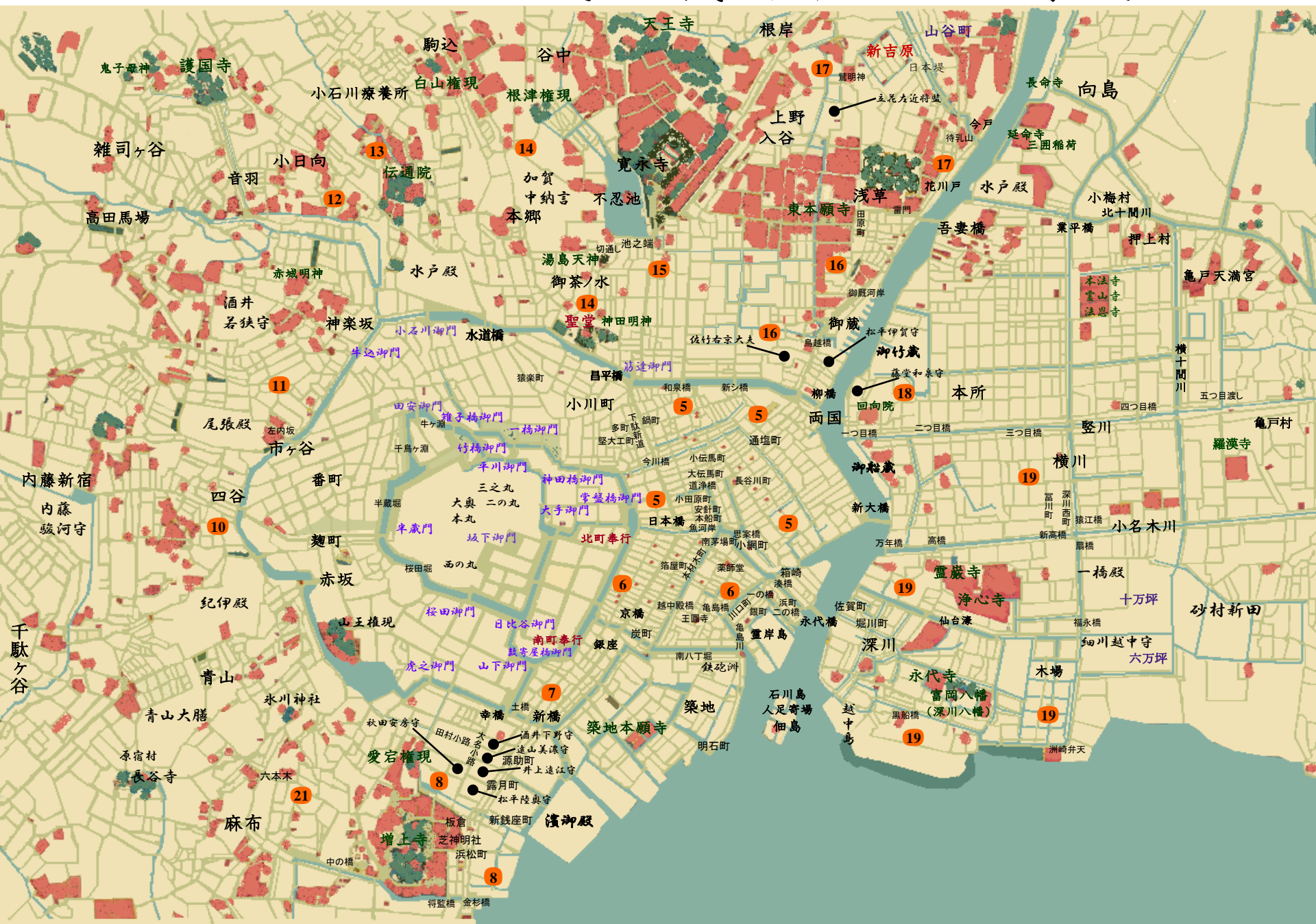


# 密命1-2 見参寒月霞斬り 佐伯泰英



# 駆け込み者・抜け参り・渡り燕・竜虎、あい撃つ

金杉吉継よしつぐ（御右筆） — 末女すえめ（妻）

あやめ（亡娘） — 惣三郎そうざぶろう（婿養子 右筆→徒士組かち）

清之助せいのみすけ（息子）、みわ（娘）

綾川辰信あやかわたつのが（直心影流道場主）、日下左近くさかさこん（齋木丹波の家臣）

齋木高茂さいきたかしげ（相良藩主さがら）、高玖たかひさ（嫡子）、菊姫きくひめ（娘）

齋木丹波たんば（高茂の異母兄 津以領）、久胤ひさたね（嫡男）

つや（側室）、ふき姫（つやの娘）

寺村重左エ門てらむらしげざゑもん（江戸留守居役） — 糸女いとじよ（妻）

北沢権之助ごんのすけ（見習い）、九一くいち（小者）、岩松いわまつ（小者）

しの（夕がおの女将 寺村の娘）、ふさ（女中）

古田孫作まごさく（江戸家老）

水沼外記げき（書物奉行）、久次ひさじ（小者）、齋藤統三郎とうさぶろう

よねやじんざ（御徒士組）、鎌吉かまきち（四男）

大友三稔みつとし（御納戸方）

荒神屋喜八こうじんやきはち（火事始末御用）、富吉とみきち（人足）、新太（人足）

松蔵まつぞう（小頭）、かね（母）

太兵衛長屋たへえ：権六ごんろく（荒神屋） — とめ（女房）

竹次たけじ（ぼてふり） — おたつ（女房）、磯吉いそきち（息子）

甚七（左官職） — かね（女房）

冠阿弥膳兵衛かんあみぜんべえ（芝神明の札差） — うい（女房）、治一郎じいちろう（息子）

お杏きょう（娘） — 半次郎はんじろう（お杏の亡き夫 芝蔦とびの長男）

忠蔵ちゅうぞう（大番頭）、巳吉みのきち（小僧）

辰吉たつきち（源助町蔦とびの総頭取 半次郎の父）、勝はしご（梯子持ち）、三吉さんきち（船頭）

赤木親洋しんよう（蘭学者）

縫ぬい（乾物問屋 相模屋さがみの娘）

天野<sup>ゆうのしん</sup>佑之進（旗本 小普請支配） — 卯野<sup>しげの</sup>（妻）、桜子<sup>さくらこ</sup>（娘）、菊野<sup>きくの</sup>（娘）

かや<sup>わねひろ</sup>（側妻）、宗紘<sup>むねひろ</sup>（かやの息子）

成瀬<sup>さない</sup>左内（用人）

杉浦与五郎（卯野の父）、平岩源四郎<sup>げんしろう</sup>（妾の子）

千代田<sup>ぜんだゆう</sup>善太夫（剣術家）、幾司朗<sup>いくしろう</sup>（若衆）

溪晏<sup>けいあん</sup>（医者）

房州屋<sup>ぼうしゅう</sup> 五郎吉<sup>ごろきち</sup>（魚河岸の親方）、新吉（息子）、源太（奉公人）

近江屋<sup>おうみ</sup>（札差）孫七<sup>まごしち</sup>（番頭）

撰津屋<sup>せんつや</sup>五兵衛（乾物商 廻船問屋）

佐平次<sup>さへいじ</sup>（見習い水夫<sup>かこ</sup>）、伊助<sup>いすけ</sup>（炊き<sup>すい</sup>）

京いせ喜<sup>きすけ</sup> 佐助（番頭）

大七<sup>だいしち</sup>（元京いせ喜の手代） — いく（女房）、おけい（娘）

掛け茶屋<sup>うめわか</sup>梅若<sup>やごろう</sup> 弥五郎

利助<sup>りすけ</sup>（小間物問屋小毬の手代）

関俣次郎<sup>またじろう</sup>（北町筆頭与力）

西村桐十郎<sup>とうじゅうろう</sup>（北町同心）

花火<sup>ふさのすけ</sup>の房之助（岡っ引） — 静香（女房）

徳川綱吉<sup>つなよし</sup>（五代将軍） → 家宣<sup>いえのぶ</sup>（六代将軍）

柳沢出羽守吉保<sup>よしやす</sup>（御側御用人）、吉里<sup>よしざと</sup>（嫡子）

間部詮房<sup>まなべあきふさ</sup>（側用人）、井荻為由<sup>いおぎためよし</sup>（用人）

脇坂美濃守<sup>わきさかみののかみ</sup>（大目付）